令和５年度　学力向上プラン

（中３７）長崎市立外海中学校

目　的

一人一人の生徒に、知識や技能に加え、主体的に学び、判断し、行動し
よりよく問題を解決していく資質や能力など、確かな学力を育む

『チーム Nagasaki』のびるプラン

ー徹底・継続ー
で子どもはのびる！

＜小中９年間を通して育てたい子ども＞

○学ぶ意欲があり、学習の習慣を身につけている子ども
○基礎的基本的な知識や技能を身につけている子ども
○問題に対し、学んだことを活用して解決方法を導くなど問題解決力を身につけている子ども
○自分の考えを論理的にまとめしっかりと表現できる子ども

本校の教育目標（学力向上関係）

たくましく　しなやかに
あしたに拓く生徒の育成

＜気づき、考え、実行する。＞

○生徒の自己実現のために、確かな学力を定着させる。
○個に応じた指導により、生徒の可能性、個性の伸長に努める。

諸検査の結果

○学力調査による本校生徒の学力の実態
〈１年〉国↑数↓:４月市(正答率)
〈２年〉国↑数↑:４月県(正答率)
〈３年〉国↑数↑英↑:４月全国(正答率)

科	領域等	１年	２年	３年
国語	知識・技能	↓	↑	↑
	話す・聞く	↓	↑	↑
	書く	↑	↑	↓
	読む	↑	↓	↑
数学	数と式	↓	↑	↑
	図形	↓	↑	↑
	関数	↓	↓	↑
	資料活用	↓	↑	↑
英語	聞く			↑
	読む			↑
	話す			↑
	書く			↓

１年：長崎市の平均より高い↑
平均より低い↓
２年：長崎県の平均より高い↑
平均より低い↓
３年：　全国の平均より高い↑
平均より低い↓

生活・学習面の実態

○素直で、健康であり、体力・運動能力に優れた生徒が多い。
○授業に取り組む姿勢は良好であり、出された課題に取り組むことができる。
○**3 年生の全国学力調査では、各教科で平均を大きく上回っている。**しかし、普段から「新聞を読んでいる」生徒がおらず、国語科においては知識・技能を活用することや「書くこと」に課題がある。英語科では、「聞く」「読む」「話す」の領域では全国平均を上回っているが、「書くこと」では全国平均を下回っている。
○**2 年生の県学力調査では各教科で平均を上回っている。**しかし、国語科の「読むこと」は、県及び市の平均を下回っており、他の観点に比べて極端に低い。また、数学科では、「関数」の領域で県及び市の平均を下回っており、この分野の強化が課題である。
○**1 年生の市学力調査は、国語科では全体的には平均を上回っている**が、漢字の正答率が低く、文章を書く問題の無回答が多かった。また、**数学科ではすべての領域で市平均を下回っている。**
○生徒数が少ないため競争意識が低く、集団を高めていこうとする態度・意欲が、やや希薄である。

○7 月学校評価　全校＜満足度１００％＞

評価項目	生徒	保護者
わかりやすい授業	100	96
家庭学習の習慣	68	76
進路指導の充実	100	100
進んで読書する	59	67

身につけさせたい学力	
国語	○漢字を正しく読み、語句の意味を理解して文脈の中で適切に使う力 ○伝えたい事柄や考えを明確にして、根拠をもって説明する力、記述する力 ○文章の展開や描写に注意して読み取る力、適切に情報を読み取る力
社会	○社会的事象についての基礎・基本 ○社会的事象についての興味関心を高めるとともに、資料を基に自他の考えをまとめ表現する力
数学	○計算を中心とした基礎・基本 ○数学用語や語句を使い、筋道を立てて説明する力
理科	○自然の事物・現象についての原理や規則性などの知識・技能 ○探究の過程を経て、課題を解決する力
英語	○自分の思いや考え・意見を書く力

全体で取り組むこと

○授業改善を重ね、身につけた知識及び技能を生かす授業を実践する。
○「始まり」を重視し、落ち着いた真剣な授業態度を作る。
○朝読書の実施と蔵書の充実を図り、読書活動を充実させる。
○「学びの習慣化メソッド」を意識し、Chromebook を活用して、家庭学習の工夫と充実を図る。
○「あじさいスタンダード」を活用する。
○生徒が苦手教科や苦手分野を克服できるようキュビナの活用方法を検討する。
○全教科、毎時間の授業で「めあて」「まとめ」を明確に示し、生徒が学習内容についてイメージしやすいよう板書を工夫する。
○夏休みや冬休みは自習室を開放し、生徒が休み期間中に主体的に学習に取り組める環境を整備する。
○探究的な学びを充実させるため、単元や授業の中で意図的な対話や協働の場面をつくり、既存知識や体験を活用して問題解決・創造する資質・能力の育成を図る。
○基礎的基本的事項は、授業の中で繰り返し指導する。記憶の定着のために、視覚情報・動作を伴う学習を意識して取り入れる。
○学校生活の中で、英語を使う機会を増やす。

各教科で取り組むこと	
国語	○漢字の書き取りや言語事項の小テストを実施し、語彙力を身につけさせる。また、辞書を使い、漢字や語句を調べる機会を設け、多様な語句について理解を深めさせる。 ○テーマや条件、文字数などを単元に応じて設定しながら、「書く」活動に取り組ませる。根拠を明確にして自分の考えを具体的に書く力を身につけるために、自分の考えの根拠となる内容が適切に取り上げられているかどうかを吟味するように指導する。 ○新聞にふれる機会をつくるため、2 階オープンスペースの机上に新聞を置き、読むように勧める。 **○学力調査において全学年、「書く力」の無回答率を減らし、平均正答率に届くようにする。**
社会	○単元テストを実施し、基礎・基本の定着を図る。 ○振り返りの時間を確保し、授業内容について記入する。 ○地図や各種グラフ、統計資料等を読み取る力を身に付けさせるため、評価規準を示した課題を設定し、見方・考え方を働かせる授業を仕組む。 **○定期テストにおける、知識・技能の正答率の平均が 70%以上となることを目指す。**
数学	○キュビナを活用し、基礎・基本の定着を図る。 ○内容理解が難しい生徒については、教科担当だけでなく補助教員と連携しながら個別指導や支援を充実したものにする。 ○３年生では、公立高校入試基礎問題に対応できるよう受験対策を実施する。 ○特に関数や図形の授業では教具やＩＣＴ等を積極的に活用して、問題の意味や解法についての理解を深めていく。 **○県の平均と比べて点数が同等またはやや上回っている項目については、平均点をより上回ることができるようにする。**
理科	○単元ごと・重要事項ごとの小テストの実施や、週１回の復習ノート作成・提出による既習内容の確認。 ○課題の設定、実験・観察や考察で、見方・考え方を働かせながら考える場面を仕組む。 ○章ごとの振り返りを通して、学習内容と日常生活を結びつける場面を設定する。 **○期末テストにおける「知識・技能」「思考・判断・表現」の正答率 70%以上を目指す。**
英語	○新出の文法事項や教科書の本文を利用して、自分の思いや考え・意見を書くことを繰り返し、習慣化する。 **○定期テストにおける思考・判断・表現力を問う問題で、全員が５０%以上正答できることを目指す。**